

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	レクサス相模原新築工事	階数	地上2F
建設地	相模原市中央区東淵野辺四丁目2157番1外	構造	S造
用途地域	準工業地域・防火指定なし	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集会所,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年5月24日
敷地面積	5,704 m ²	作成者	大成建設㈱一級建築士事務所
建築面積	3,028 m ²	確認日	
延床面積	3,083 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>・前面道路側商業地の賑わいを演出することを意図しデザインした。また住宅地側は建物を境界から後退させ植栽を施し、周辺への環境悪化を生じさせない設計を心がけた。</p> <p>・外壁はピロティや大型開口の他、壁面を雁行させ変化をつける事により分節化し、単調さや圧迫感を感じさせないデザインとしている。</p>	
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>・禁煙ブースにより非喫煙者が煙に曝されない対策をとっている。</p> <p>・事務所部分の照度は700lxとしている。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>・内外装計画はCG・模型等により十分に事前検証されている。</p> <p>・ユニットシャワーの高湿排気ダクトにはステンレス鋼板を使用している。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>・建物外周壁の大半をを二重壁とし断熱効果を高めると共に、省エネルギー機器を採用するなど省エネに努めた。</p> <p>・建物外皮の熱負荷制御(BPIm)は0.82</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>・節水型便器を採用し、化学物質排出把握管理促進(PRTR)法に該当しない建材種別が4つ以上ある。</p>
	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>・歩道に沿って前面に緑地を施した1階フロントは連続する大型ガラスの採用で、視覚的な広がりを持たせた。</p> <p>・前面道路側は2階をセットバックさせ、屋上の駐車場や設備スペースは視界から遮断し、まちなみの景観に配慮。</p>
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>・駐車場及び管理用車両の駐車施設を確保し、周辺道路の渋滞緩和に資するように出入口の位置・範囲を大型車両の軌跡で決定している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される